

施策番号 1-3-1	施策名 地域で支え合う福祉社会の実現	基本目標	誰もが健やかに生き生きと暮らせるまちづくり			
		政策名	健やかな暮らしと自立を支える福祉の充実			
	主管課	保健福祉課	課長名	有澤 勝昭	内線	550
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
年齢や世代、性別、障がいの有無に関わらず、地域全体がお互いに支え合える体制づくりをすすめます。		町民	住民同士で支え合う体制をつくる				住み慣れた地域で、安心した生活を送ることができる
成果指標	説明	単位	2011年度(策定時)	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	
① ボランティア活動に参加した町民の割合	住民意識調査	%	未調査	31.4	23.1	35.0	
② たすけあいチーム参加町内会数	社会福祉協議会調べ	箇所	35.0	51.0	54.0	43.0	
③ 住んでいる地域は、住民同士支え合う体制ができていると思う町民の割合	住民意識調査	%	52.6	51.0	49.7	65.0	
成果指標設定の考え方	①ボランティア活動への参加が増加することが、住民同士の支え合い体制の構築に繋がることから成果指標に設定。(段階的に35%を目指す) ②助け合いチームの設置町内会数が増加することが、住民同士の支え合い体制の構築に繋がることから成果指標に設定(段階的に目標値を目指す) ③は、住民意識調査を成果指標に設定						

2. 施策の事業費

	2017年度決算	2018年度決算
施策事業費(千円)	33,512	33,083
人工数(業務量)	1.6244	1.5904

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2018年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input checked="" type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標②は上昇したが、①③は低下。→②は、社会福祉協議会による加入促進により上昇(86町内会・行政区の約6割)したが、①③は低下したため全体として低下したと考える。特に①については、ボランティアセンター登録団体の減によるものと考えられる。
②第4期総合計画(後期実施計画)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 目標は達成できた <input type="checkbox"/> 目標は概ね達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標は達成できなかった	根拠(理由)	・②の指標については、本町における地域福祉を推進する中核的な団体である芽室町社会福祉協議会の地域福祉活動の継続により目標を達成したが、①、③の指標については、目標を達成できなかったため、全体として目標は達成できなかったと考える。 ・特に①の指標については、ボランティアセンター登録団体の減(10→8団体)によるものと考えられる。
(2) 施策の成果評価に対する第4期総合計画(後期実施計画)の事務事業総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	社会福祉協議会活動支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	ボランティアセンター運営支援事業
③事務事業全体の振り返り(総括)	・「社会福祉協議会活動支援事業」→たすけあいチームへの加入促進に向けた継続した取り組みにより、身近な地域での助け合い活動の拡大を図った。 ・「ボランティアセンター運営支援事業」→ボランティアセンターとめむろ柏ふまねっとクラブが共生型施設ふれあいサロン「なごみ」で普及に努めていた「ふまねっと講座」が拡大し第2会場として保健福祉センターでも実施されるようになったが、登録団体の減少により、成果指標の向上には繋がらなかった。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、核家族化、地域社会における関係の希薄化・孤立化などの社会情勢において、住民同士の支え合い体制の構築が必要。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉を推進する中核的な団体である茅室町社会福祉協議会やボランティアセンターの活動が重要。 ・「向こう三軒両隣」により支え合いの再認識。 ・地域活動の担い手の育成や活動団体支援。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員の定数割れ(2名)や、民生委員児童委員のなり手不足について、議会から意見がある。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画期間において新たに取り組むべき課題)

●課題① 地域福祉を推進する体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・本町における地域福祉を推進する中核的な団体である茅室町社会福祉協議会が核となり、団体、事業者など幅広い地域資源が、それぞれの特性を十分発揮できるよう役割を明確にし、連携できる体制の構築が必要である。
●課題② 地域における支え合い活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「向こう三軒両隣」により支え合いの再認識、また、地域活動の担い手となる人材の育成や活動団体設立・活動支援が必要である。
●課題③ 民生委員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員の担い手確保が大きな課題となっている。本町においても2地区の委員が欠員となっており、継続して登用を進める。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	身近な地域での活動拡大が図られ、施策全体として策定時から比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
進捗結果					○		
今後の取組に対する意見	活動推進や人材確保等について、関係団体等との連携して進めてほしい。	A: 実現した	B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した				
		C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した					
		D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない					
		E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	ボランティアセンターの登録団体は減少しているものの、個人での活動など、意識せずにボランティアを行っている場合も多く、総体的には維持されている。		A	B	C	D	E
進捗結果					○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の確保について、幅広く働きかけることが必要ではないか。 ・住民意識調査のボランティアの捉え方は人によってさまざまである。指標に表れていないボランティアも多いと思うので、記載内容を検討してほしい。 	A: 実現した	B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した				
		C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した					
		D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない					
		E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した					